

2014年度活動報告

はじめに

引退馬協会が設立して5期目となった2014年は、会員数が増えて、活動も多岐に渡るようになったことを踏まえ、運営の基盤強化と充実を図ることを目的として活動しました。また、対外支援活動の引退馬ネットでは、サポート団体数が増えるに従ってその会員数が大幅に増え、人的、資金的負担が急増したことから、サポート団体に一部の経費負担をしていただく「受益者負担」をお願いしてシステム改定を行い、2015年度からの本格的な移行を目指して準備を進めました。

フォスターホースたちにつきましては、2014年8月6日にエリモシックが亡くなるという悲しい出来事がありました。他のフォスターホースは34歳となったウラカワミュキを筆頭に高齢化しておりますが、健康上さまざまなトラブルが発生しつつも8頭とも概ね元気に過ごすことができました。

イベントでは、恒例のホーストラスト鹿児島でのボランティアツアー、隔年で開催している北海道ツアーに加え、2015年2月の北海道庁、札幌競馬場に続いて4月から5月にかけて京都競馬場で「癒しの馬」写真展を開催し、会員の皆様の多大なるご協力のもと、好評のうちに終えることができました。

2014年度からは、写真展等のイベントや会報や近況報告集の編集など、会員の皆様にボランティアとしてご参加いただく機会が増えています。

あらためまして、皆様のご支援に心より感謝いたします。

1)馬と人のふれあい事業

引退馬協会の根幹事業であるフォスターペアレント事業と深い関連性をもって実施している「馬と人のふれあい事業」では、2014年度も、前身の「イグレット軽種馬フォスターペアレントの会」の時代からもっとも大切にしていく「馬と人とのふれあい」を主として行ってきました。

① 「フォスターホース(以下「FH」)と過ごす日」の開催及び騎乗指導と講習会

「FHと過ごす日」は体験騎乗やお手入れなどのふれあいを通じて馬の温もりに接することができるイベントとして、トウショウフェノマとハリマブライの預託先である千葉県の乗馬倶楽部イグレットにて隔月で5回開催しました。8月は毎夏恒例の一品持ち寄りバーベキュー、12月には忘年会との同時開催とし、たくさんの方がFH達とのふれあいを楽しんだり、会員同志の親睦を深めていました。

体験騎乗は、フォスターペアレント事業で騎乗できるFHがハリマブライのみのため、オーナー様のご厚意によって、再就職支援プログラム卒業生のヒシブレンティや、引退馬ネットのサポートホースのサーチエネミー、乗馬倶楽部イグレットの馬たちにも協力してもらって行いました。

担当スタッフにFHたちが普段どんなふう暮らしているかなどを語って



ただ馬房前トークもすっかり定着し、サーチエネミーや、再就職支援プログラムで馴致中のボナンザタービンやカエラチャンなども含め、それぞれの馬のもつキャラクターに触れることによって親しみが深まるとともに、馬という動物への理解も深めていただくことができました。

② 乗り方指導・馬の接し方講習会(含む安全指導)

トウショウフェノマが、2013 年度をもって、調教スタッフによる健康保持のための乗り運動を除いて会員騎乗を引退したため、乗ることができるFHがハリマブライト一頭になってしまい、「FHと過ごす日」を除いて、会員騎乗はほとんどありませんでした。ハリマブライトも、小柄で、誰でも乗れるというわけではないので、2015 年度には、千葉に騎乗できるフォスターホースを迎えることを検討しています。

③ 安全に接することができる馬の調教(引退競走馬再就職支援プログラム)

再就職支援プログラムは、引退した競走馬を新たな馬生へと繋げることを目的として、安全に接することができるように馬と人の信頼関係を構築し、適性を見極めて、譲渡先へ送り出すために行っている事業で、譲渡する馬と譲渡先との mismatch を防ぐために、大変有効なプログラムであると考えています。欧米では既に行われていましたが、近年、国内でも実施する引退馬支援団体が増えてきています。引退した競走馬に本プログラムを受講させたいと思った方が、馬をプログラムの実施施設(現在は乗馬倶楽部イグレットのみ)に移動する費用を負担し、譲渡した後の見守りも行っています。



6 期生 ボナンザタービン

当初、2014 年度は 1 頭分の予算を組み、余裕があればもう 1 頭の受入をと考えていましたが、本プログラムへ大口の寄附収入があったことにより、2 頭に対して実施することができました。第 6 期生のボナンザタービンは、千葉県富里市の乗馬クラブへ譲渡し、順調に新たな馬生を送っています。また、群馬県の学校に譲渡した第 1 期生のカエラチャンは、戻り調教が必要となったため、2015 年 1 月に乗馬倶楽部イグレットに戻って再調教し、8 月に学校に戻りました。



1 期生 カエラチャン

当初、本プログラムでは 3 ヶ月を 1 頭のサイクルと考え、初期馴致のみをする前提で事業を行っていましたが、譲渡先を探すことに時間がかかるため、自ずと調教段階が乗馬レベルへと進んでいました。2015 年度からは適性な期間と内容にあった予算確保をしていきます。

④ 馬の養老施設視察・作業ボランティアツアーの実施

2015 年 3 月 21 日から 23 日にかけての 2 泊 3 日で、会員 11 名、沼田代表、事務局スタッフ 1 名の計 13 名で、ホーストラスト(鹿児島)にて実施しました。

毎年、作業ボランティアとして行っているツアーですが、今回は、ホーストラストのご厚意により、初日には 2014 年 3 月 24 日に亡くなったエナコを偲ぶ会と、ハーモニイトセチャンやコッチャンの放牧地を見学させていただき、2 日目と 3 日目は見学後に馬の健康チェック、手入れ、餌やり、駆虫剤の投与



などのお手伝いを行いました。小西代表からは、長い闘病生活を支えた馬の介護のことや、今後の活動についてのお話を伺うこともでき、参加された方々から、「とてもよい経験になった」、「ぜひまた参加したい」との声が寄せられました。ボランティアツアーは今後も毎年実施していく予定です。

⑤ 北海道ツアー

隔年で行っているフォスターホースゆかりの牧場や名馬たちを訪問する「北海道ツアー」を 2014 年 10 月 11 日～13 日の 2 泊 3 日で実施しました。今回も大勢の会員が参加し、会員同志の懇親に加え、夕食時にはゆかりの牧場の方々との親睦を深めることができました。ツアーにご協力いただいた牧場の皆様にはこの場をお借りし、あらためて御礼申し上げます。なお、このツアーは今回からツアー会社に委託して実施しています。



渡辺牧場にて



丸村村下ファームにて

2) 啓発事業

年 4 回、季刊で発行している会報「RHA 通信」やインターネットなどで、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるために、さまざまな形での情報発信を行っています。

① 引退馬に関する各種広報活動

年度を通して、会のホームページやブログを主に、facebook や twitter を通じて、フォスターホースやサポートホースに関する情報発信を行いました。特に SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) を利用した情報発信は、啓発のみに留まらず、引退馬を支援したいと考える方々を新たな入会者へと繋げることができました。

② RHA 通信・活動報告書の発行・送付 (印刷版・PDF 版)

正会員 (一般会員・FP 会員)・後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、7 月、8 月、1 月、4 月の年 4 回、季刊にて「RHA 通信」を発行しました。また、2013 年度の活動報告は 2014 年 11 月にすべての会員宛に郵送またはメールで送付しました。予算的には、複合コピー機を替えたことにより、コピー代を節約することができました。

③ フォスターホース&サポートホース写真展

馬という動物を身近に感じてもらうことを目的として、フォスターホースとサポートホースの日常の表情を集めた「癒しの馬写真展」を開催しました。

2 月の北海道庁、札幌競馬場に続き、4 月から 5

月にかけては JRA 京都競馬場で開催し、多くの方が来場されました。



北海道庁展



京都競馬場展

④ ハッピーライフプロジェクト

引退した競走馬を引き取りたいと思う方のために、その馬を行方不明にしないことを目的として、馬の健康手帳につける「ハッピーライフカバー」の配布を行っています。これまでに、東日本大震災の被災馬の譲

渡時や、再就職支援プログラムを卒業した馬の譲渡時に装着しました。2014年度は、競馬情報サイトで取り上げられたこともあり、カバーの入手を希望される方が何名かいらっしゃいました。

ハッピーライフカバーは、「引き取れたらいいな」という意識ではなく、現実には「引き取る」という決意をもって登録していただくため、配布の際には繋養先の予定などもあらかじめ必要な情報として伺います。

一方で、カバーの装着は将来の譲渡を確約するものではなく、譲渡を希望する「意思表示」です。実際に装着できるかどうかは、現所有者及び管理者の理解と協力がなければ難しいのが実情であり、お問い合わせをいただいても装着まで至るケースは現状ではさほど多くありません。2015年度は、より実効的な運用方法を具体的に定めることを課題と考えています。

⑤ 被災馬支援活動記録集制作販売

東日本大震災で被災した馬たちの支援活動を記録として残すことを目的とした被災馬記録集は、2014年度内の完成、発行を目標に編集を進めていましたが、編集者との間で本の内容の方向性に調整がつかなかったため、完成に至らず、契約解除となりました。現在は、別の編集者に依頼をし、2015年末、または震災から5年となる2016年3月の発行を目指して作業を進めています。

3)引退馬ネット事業

① 馬の引取り相談・サポート

馬を引き取るということが特別なことではなくなりつつある中、傾向として、引き取りたい馬について早い時期から準備をする方が増えている一方で、準備不足により結果的に高額な馬代金を払わなければならないケースが見受けられます。引退馬は今やひとつのマーケットとして成立しており、最低でも肉値同等の資金の準備が必要になってきています。馬運代や入厩時に発生する保証金(必要ない場合もあります)や当面の預託料などを余裕をもって準備しておくのが引き取る者の責任です。昨今、あまりにも甘い見通しで馬を引き取ろうとする方も多いため懸念されます。

また、以前より、警視庁騎馬隊からご相談を受け、退役馬の譲渡先探しをサポートさせていただいていましたが、2014年度はハヤテ号(競走馬名グランスクセイ)を千葉県御宿の牛舎8号へ、響輝号(競走馬名ロードシンフォニー)を北海道石狩市の乗馬クラブメインフィールドへ(移動は2015年8月)と、2頭を第二の馬生へと繋ぐことができました。譲渡に際しての関係者の皆様のご協力に感謝いたします。

② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

前期より立ち上げの相談が継続中の案件のみ新規のサポート対象とし、新規の会のサポート団体の立ち上げ相談については受付休止としました。今期は新たにハルウララ(春うららの会)とダンツシンガー・ストロングフローラ(吉備ひだまり牧場おひさま会)が加わりました。春うららの会、吉備ひだまり牧場おひさま会については、設立時よりシステム手数料(牧場等馬の繋養を生業としている場合は実入金会費の10%)を経費として負担していただいています。

また2013年度に設立された渡辺牧場里親会では、セントネイチャー1頭のサポートホースで始めましたが、2014年度中には2頭目のプリティプリンを迎え入れました。(なお、2015年度にはキタノダイマジン

迎え、設立時に目指していた3頭すべてが加わりました。)

2014 年度新規サポート馬・団体・繋養先一覧

| サポートホース | サポート対象 | 繋養先 |
|-------------------------------|-----------------------|--------------------|
| ハルウララ | 春うららの会 | 千葉県・マーサファーム |
| ストロングフローラ ダンツシンガー | 吉備ひだまり牧場おひさま会 | 岡山県・吉備ひだまり牧場 |
| プリティプリン キタノダイヤモンド(2015 年度) | 渡辺牧場里親会(2013 年度に設立) | 北海道・渡辺牧場 |
| オキテ(※) | オキテ君を見守る会(2012 年度に設立) | (再就職支援プログラム待機で仮移動) |

※「オキテ君を見守る会」は、オキテ号が現役馬だったため、これまで非公開とし、再就職支援プログラム参加のための積立をしていましたが、引退に伴い、公開しました。オキテ号は静内坂本牧場の生産馬で、サポートホースだったマイネルスティングが子育てをした馬で、解散したマイネルスティングの会の元会員を中心に見守ってきました。

③ 引退馬による「馬のいる風景」を守る取り組み

新たな引退馬繋養牧場の設立を目指される方からの相談や、空き牧場を利用した「馬のいる風景」を増やすための啓発など、新たな取り組みも増えてきました。これまでにはなかった分野ですが、馬が安心して生活する場が増やせるような取り組みにしていきたいと思えます。本事業は 2015 年度以降は「馬と人のふれあい事業」の「馬のいる風景を守る取り組み」として実施していきます。

4) フォスターペアレント(FP) 事業

フォスターペアレントとは、FHを支える里親の名称です。引退馬協会の根幹事業として、前身の「イグレットフォスターペアレントの会」から、FHたちが安定して元気に暮らせるように支援していただく会員制度として継続している事業で、FHの繋養、里親制度の運営、FHに関わる情報発信はすべてFP事業となります。

- ① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営
- ② 集いの場の提供
- ③ フォスターホースの預託(「馬と人のふれあい事業」に活用)

2014 年 8 月 6 日、エリモシックが肺出血のため、預託先の本桐牧場で亡くなりました。FH になって 1 年という短い間ではありましたが、たくさんの方に愛され、支えていただき、穏やかに日々を過ごせたことに心より感謝いたします。

エリモシックが亡くなり、FHは 8 頭となりました。34 歳となったウラカワミユキをはじめ、ナイスネイチャ(27 歳)、セントミサイル(25 歳)、トウショウフェノマ(23 歳)、ハリマブライ(20 歳)と高齢化が進んでいます。馬たちの QOL(クオリティオブライフ)を維持するために情報を収集し、被災馬FHのコッチャンとハーモニイトセちゃんについても、鹿児島大学の先生によって定期的実施している健康診断の結果報告



エリモシック
安らかに…

を受け、獣医療や飼養管理が必要な場合は、早めかつ適切な処置を預託先をお願いしています。

ウラカワミユキにはグルコサミン、エイシンバーリンにはメラノーマの進行の抑制効果があると言われる漢方薬を投与しているほか、腰のふらつきや排尿のコントロールができなくなっているトウショウフェノマは電気鍼治療を行っています。

現在、会員が騎乗できるFHがハリマブライต์のみとなっていることから、2015年度には、ふれあい事業に活用できる馬を含め、新たに2頭のFHを受け入れる予定です。

④ フォスターホースに関わる情報発信

FP会員には、RHA 通信を発行した4月、7月、10月、1月を除く計8回、フォスターホースレポートを、郵送及びPDF版で発行しました。この他、会のホームページ、facebook、twitterでも随時、近況報告を発信しました。

⑤ フォスターホースカレンダー製作販売

「2015年フォスターホースカレンダー」からページ数を増やし、FHの写真も充実して1000部制作しました。FP会員や関係者へプレゼントした分以外は、昨年までの500円から値上げして一部800円で販売し、完売となりました。

⑥ エナコを偲ぶ会とフォトブック制作

2015年3月21日からのホーストラスト鹿児島へのボランティアツアー時に、3月24日の一周忌に合わせて、「エナコを偲ぶ会」を行いました。被災馬FP会員をはじめ、たくさんの会員の方が、墓前に花やにんじん、りんごを供え、エナコを偲びました。また、同月、エナコの生前の写真と近況報告をまとめたフォトブックを制作し、被災馬FP会員や関係者にお送りしました。

⑦ エリモシクの「思い出を語る会」と近況報告集、フォトブック制作

北海道ツアー開催2日目の2014年10月12日、宿泊先のホテルにて、本桐牧場の長井社長とスタッフお二人にお越しいただき、「思い出を語る会」を行いました。会場では生前のビデオを流し、在りし日を偲びました。また、エリモシクの近況報告集とフォトブックを2015年3月にFP会員と関係者にお送りしました。墓碑については2015年6月に本桐牧場に建立させていただきました。



たくさんのお花や
にんじん、りんごに囲まれた
エナコの墓碑



エリモシクの思い出を
語る会にて

5) 協賛及び後援事業

年度内に3回の予算を計上していましたが、実施にあたっての詳細なガイドラインを策定するため、2014年度内の実施は見送りました。2015年度からは、引退馬ネット事業とし、サポートホース団体に対して実施していくことになりました。

上記5事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

スタッフによる見守り活動を継続し、必要に応じて支援を行っています。また、被災馬を複数引き取った岡山の乗馬クラブに対して、資金援助を行いました。

被災馬フォスターホースのハーモニイトセチャンとコッチャンについてはFP事業の項にて説明させていただきました。なお、2014年度まではハーモニイトセチャンとコッチャンの預託費は被災馬支援基金から拠出していましたが、2頭の保証金を残して被災馬支援基金の残高がなくなったため、2015年度からはFP事業からの支出となります。今後被災馬支援基金への寄付は、他の馬たちの見守り活動に充てていきます。

② 引退馬連絡会

具体的な活動は行いませんでしたが、2014年9月14日に、Rolling Eggs Club 主催により新ひだか町静内で開催された「引退馬ホースサミット in 日高」での各団体の紹介でFHや引退馬ネットのサポートホースのパネルを展示し、パネルディスカッションに沼田代表が参加しました。

6) その他の事業

2013年度に続き、法人税の負担に見合った収益が見込めないとして、営利事業は実施しませんでした。今後も確たるメリットが期待できるまでは実施を見合わせることにします。

※引退馬協会は千葉(本部)と北海道(北海道事務所)の二つの都道府県に事業所があるため、千葉県と香取市、北海道と長沼町の4か所で法人税の支払いが発生します。

2015年度に向けて

写真展や企画展などの啓発活動によって、引退馬について多くの方が考えるきっかけができ、大きく動き出すことが予想される2015年。引退馬協会では、再就職支援プログラムやハッピーライフカバーなどの事業を活性化させ、引退馬を取り巻く様々な問題にさらに積極的に取り組んでいきます。

具体的には、新たなフォスターホースを受け入れることに加えて、再就職支援プログラムの一頭あたりの予算に余裕をもたせ、より多くの馬をその馬にあった第二の馬生へと送りだすこと、馬を行方不明にせず、引き取りたいと思う方のもとに辿り着くことができるように、ハッピーライフカバーを効果的に活用できるようにすること、中断していた引退馬ネット事業を再開し、引き取りに関する啓発活動にも力を入れていきます。

また、引退馬を支援したいと考える方の入会や、引退馬ネット事業のサポート団体が増えていくことを考え、業務をより効率化していくことを大きな課題として、前身の「イグレットフォスターペアレントの会」から続く、一頭でも多くの馬が幸せに余生を送れるようにとの思いのもとに、多くの方々からのご理解とご賛同を得られるよう、邁進していきたいと考えています。